

・円一段安か、秋の陣



宗教問題を巡る政治への逆風も日銀には及ばず

< 岸田内閣の支持率 >

	支持する	支持しない
毎日	36.0% (前回↓16pt)	54.0% (前回↑17pt)
FNN	54.3% (前回↓8.1pt)	40.3% (前回↑9.4pt)
朝日	47.0% (前回↓10pt)	39.0% (前回↑14pt)

出所: 毎日・FNN 8月20日~21日、朝日 8月27日~28日に世論調査実施 作成: 岡三証券

2020年8月28日に安倍首相が辞意表明
2021年9月 3日に菅首相が辞意表明



岸田文雄



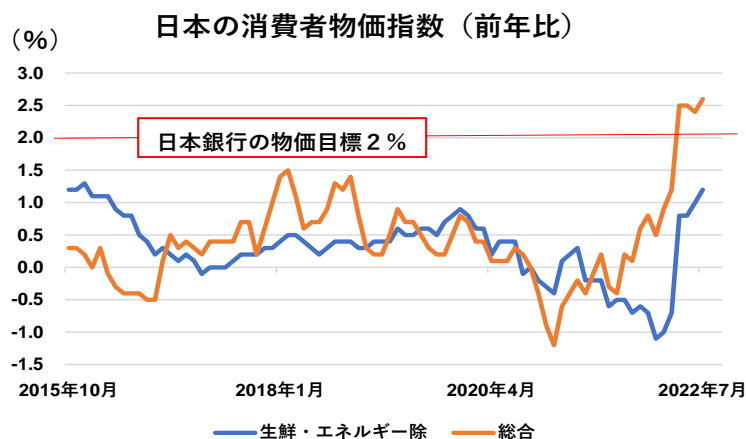
自民党は旧統一教会との関係を絶つことを基本方針とする (岸田首相 8/31)

今の経済・物価状況、7月の(日銀)決定会合以上に伝えるべき変化はない(中川日銀審議委員 8/31)

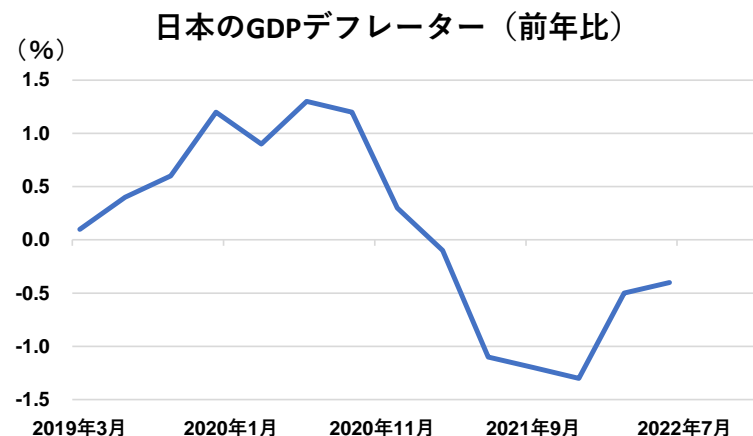


持続的な緩和を行う
以外選択肢はない

8/27 ジャクソンホール会議で



出所: 総務省 作成: 岡三証券



出所: 内閣府 作成: 岡三証券

・円一段安か、秋の陣

11月米中間選挙前に物価抑制の利上げ。米雇用への影響は..

※FRBは7月会合でフォワードガイダンス示さず
※先行き不透明から円・ドルの予想変動率(インプライド・ボラティリティ)上昇
1W、3Mなど10~15%へ(通常は6~7%)

値幅となった。2円超の
値幅が5日続くと、リ
マン・ショック直後の
2008年10月以来だ。
円・ドルの予想変動率
が「米連邦準備理事会(F
(インプライド・ボラテ
イリティー)は高止まり
している。通貨オプショ
ン市場の動向から算出す
る予想変動率は、3カ月
物で11%前後と平常時
6~7%を上回る。20年
のコロナショックを除
き、FRBは7月の会合で

7月28日午前3時半、パウエルFRB議長の主な会見内容

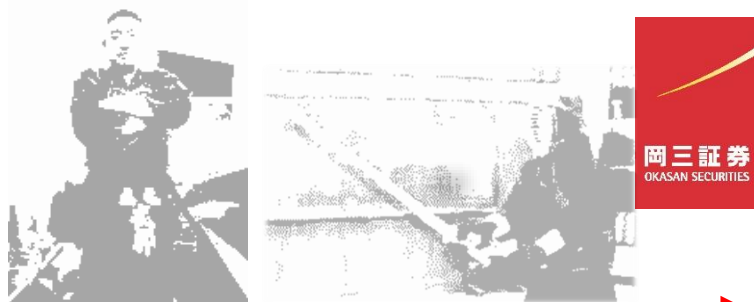
「今後数カ月、インフレ低下を示す説得力ある証拠探る」
「利上げペースはデータや経済見通し次第」
「以前のように明確なガイダンスを示すのではなく、会合ごとに判断する時期となった」

8月26日午後23時、パウエルFRB議長の主な会見内容

「強力な手段を活用する」「今は立ち止まっている場合ではない」
「歴史は時期尚早の金融緩和を強く戒めている」
「(物価安定に向かうと)確信するにはほど遠い」
「(9月FOMC利上げ幅は)データ次第」



・円一段安か、秋の陣




主要中銀の金融政策が為替を突く

利下げ派


緩和継続派

利上げ派




 トルコ中央銀行
カブジェオール総裁
政策金利+13.0%
(次回会合 9/22)




 日本銀行
黒田総裁
政策金利-0.10%
(次回会合 9/21-22)




 欧州中央銀行
ラガルド総裁
政策金利+0.5%
(次回会合 9/8)



 豪準備銀行
ロウ総裁
政策金利+1.85%
(次回会合 9/6)




 カナダ銀行
マクレム総裁
政策金利+2.50%
(次回会合 9/7)




 FRB
パウエル議長
政策金利+2.25~2.50%
(次回会合 9/20-21)




 中国人民銀行
易綱総裁
政策金利+3.65%
(次回会合 未定)




 英国中央銀行
ベイリー総裁
政策金利+1.75%
(次回会合 9/15)



 NZ準備銀行
オア総裁
政策金利+3.0%
(次回会合 10/5)



 メキシコ中央銀行
ロドリゲス総裁
政策金利+8.50%
(次回会合 9/30)

円一段安か、秋の陣

対ドルでの円買い理由希薄

1998年8月高値147円66銭

1998年6月17日高値144円10銭

(日米協調ドル売り円買い介入水準)

(1ドル=円)



ドル円相場

145
140
135
130
125
120
115
110

(円安)
↕
(円高)

145.00(上値目途)

135.00(下値目途)

7月下旬からの短期
ダウントレンド否定

予定

9/2 米雇用統計

9/5 米休場

9/11 沖縄知事選挙

9/13 米CPI

9/19 日本休場

9/21 米FOMC

9/23 日本休場

9/27 国葬

(第2四半期内受け渡し最終取引日)

2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

※長方形(レクタングル)トレンド継続中

・円一段安か、秋の陣

対ドルでのユーロの弱含みが対円での上昇を抑制



※144円のトリプルトップ(3回高値)の突破力が課題

円一段安か、秋の陣

対ドルでの豪ドル弱含みも資源高が強み



※①長方形 ①トレンドと②の長方形 ②トレンド併用

・平均時給も物価に影響

米雇用統計9月2日金曜日21:30発表

8月失業率予想:3.5%

8月非農業部門雇用者数予想:+30.0万人

8月平均時給(前月比)予想:0.4%



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
非農業部門 雇用者数	+46.7万人	+67.8万人	+43.1万人	+42.8万人	+39万人	+37.2万人	+52.8万人
失業率	4.0%	3.8%	3.6%	3.5%	3.6%	3.6%	3.5%
労働参加率	62.2%	62.3%	62.4%	62.2%	62.3%	62.2%	62.2%
平均時給 (前月比)	+0.7%	±0.0%	+0.4%	+0.3%	+0.3%	+0.3%	+0.5%



急変に注意

8月米雇用統計局面でのドル円上下焦点

(1ドル=円) **ドル円相場と米10年国債利回り (時間足チャート)**

